

6月29日(月)

恐れからの救い

聖書朗読 詩篇 34:1~10

私が主を求めると、主は答えてくださった。私をすべての恐怖から救い出してくださいました。
詩篇 34:4

私の家族に、エレベータを非常に怖がる者がいます。彼女はどのような犠牲を払ってでもエレベータを避けようとし、建物の5階であっても、時間の浪費と思われるのですが階段を使うのです。実は私にもとても恐れるものがあります。それは鮫です。家族と海へ出かけ、皆が波乗りを楽しんでいても、私は砂浜で待っているというほどです。私たちのこの恐怖心というものは馬鹿げたもので、私たち自身もそれはよく分かっています。私たち2人は、それぞれの恐怖症が愚かなことであると認め、互いに克服し合おうとするのですが、やはり互いに励まし合った後もその恐怖心は変わりません。

誰でも何かしら恐れがあるでしょう。恐れや不安があるからこそ、例えば、保険に入ったり、ドアのカギを掛けたり、シートベルトをしっかり絞めたりするのではないのでしょうか。恐れは私たちに支配する主人ともなり得ます。けれども聖書には、「神が私たちに与えてくださったものは、臆病の霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。」(IIテモテ1:7)とあります。私たちの父は、いわば毒を消し去る解毒剤のように、恐れを消し去ってくださるお方です。

このような神様の聖なるお薬をどうしたら受け取れるのでしょうか。それは、みことばを学び祈ることを通して受け取れるものです。そして、何とかなると信じて恐れに立ち向かうことです。今度ビーチへ行ったら、神様の約束を思い出し、フィンとゴーグルをつけて海へ飛び込もうと思います。神様は、恐れに立ち向かう私を必ず助けてくださるでしょう。私の膝はずっと震えているかもしれませんが。

讃美歌 290

祈り 親愛なる主よ。これ以上私を恐れのおもひとさせないでください。恐れに立ち向かい、恐れを克服し、あなた様にもっと仕えることの出来る者としてくださいますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ケリー・ウィリアムズ
アラバマ州 フローレンス

今日の日

2020年6月29日~7月5日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

6月30日(火)

権威と教え導く事

聖書朗読 詩篇 34:11~18

来なさい。子たちよ。私に聞きなさい。主を恐れることを教えよう。

詩篇 34:11

「最も大事なものは、何を学んだかではなく、何を教えたかである。」という格言があります。今日の聖書箇所では、主を知り主を愛することを、子供たちに教えるようにと語られています。このことは単なる奨励ではなく、神様の掟です。第二テモテ3章16節には、「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練の為に有益です。」とあります。現代の私たちは、自分たちの権威や権限を主張する時代に生きていますが、家族をその犠牲としてはなりません。

私たちは子供たちに新たな進路、より良い道を備えてあげることができるでしょう。過剰に物を与えたり、様々な事柄から生ずる結果から過度に守ったりする代わりに、真に大切な神様の教えと親の指針を示し、起こった事象の結果と面と向き合い問題解決する能力を養い学ばせることができます。いかにして悪を退け、平和を求め、主とその導きを知り、そして、信仰的な聖なる歩みをすることが出来るかを教え諭すことができます。これは、私たちがそのような歩みに関わる目標を明確にし、それを達成できると信じ、問題があれば耳を傾け、みずから実践して示し、励ましを与え、子供たちの歩みの過程でフィードバックを与え、そして結果を評価することで成せるものです。このようなアプローチはまさにイエス様が私たちに教えられたことであり、今もなお教え続けておられることです。

讃美歌 460

祈り 親愛なる主よ。自分の権威や権限を振りかざすことなく他者を教え導くことが出来ない事をお赦しください。どうかあなた様の道を自信と確信をもって教える事を学ばせてください。そのことによって、周囲の人たちがあなた様に従いたいと願うようになりますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

スーザン・K・ギボニー
カリフォルニア州 マリブ

7月1日(水)

寝床から出ると犯してしまう罪

聖書朗読 詩篇 39:1~13

神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。

詩篇 51:10

定期的にインターネットで配信される祈りがあります。「主よ、今日私は何の問題もなく、子供たちに腹を立てることもなく、聖書を読み、祈りを捧げて過ごします。今日も良い一日となりそうです。まだ床から起きていないのですが。」というものです。今日の聖書箇所、詩篇で、ダビデは、「私の口に口輪をはめておこう。悪者が私の前にいる間は。」(詩篇39:1)と語り、自らの自制心によって罪との闘いに勝とうとしていることが記されています。けれども彼は、その闘いは自分の力で勝てるものではないことに気付かされます。

罪というものは、この世と関わらずにいられば容易に避けられるものかもしれませんが。この世の感覚が遮断された状況であれば、聖霊がそれを可能にしてください。けれども、「床から起き出る」と、聖なるものによって容易に避けられる罪も避けられなくなってしまいます。この世は、私たちのうちの最も醜い性質を引き出すものとするものです。ダビデは、自分の力ではこうした罪との闘いに打ち勝つことは出来ないと悟り、「私の望み、それはあなたです。私のすべてのそむきの罪から私を助け出してください。」(詩篇39:7~8)と言っています。床から出ると誘惑が大きく迫って来ます。ダビデのように神様を私たちの力とさせていただきましょう。

讃美歌 250

祈り 親愛なるお父様。罪を避けるのはとても難しいことです。どれだけ試みても、その結果に落胆し、あなた様を悲しませてしまいます。避けようとする事ば、思い、行いは、私の制止しようとする力に勝り、私は屈してしまいます。どうかそのような私を赦し、あなた様こそ私の力の源であることを思い出させてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ブルース・W・ルージュ
カリフォルニア州 メルセッド

7月2日(木)

神様の肩書

聖書朗読 詩篇 50:1~6

神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある』という者である。」

出エジプト 3:14

肩書というものは、冗談で呼ばれる呼び名であっても、誰にでもあるのではないのでしょうか。中には、大げさなものもあれば、実に滑稽なものもあるでしょう。一般の私たちでさえ、肩書から離れるのは難しいのではないのでしょうか。ジョン・アダムズは、初代大統領ジョージ・ワシントンを「殿下」と呼びましたが、これは王族のように聞こえたので、ジョージ・ワシントンは謙虚にただ「大統領」と呼ばれること望んだと言われています。

神様は肩書など必要とされず、継承したり獲得したりすべき位もありません。神様は、表され語られたそのもの、その存在そのものが認められるお方であり、それによって、私たちは、どのようなお方であってどのような事をなさるお方なのかを悟り、神様を認め称えながら歩むことが出来ます。神様を完全に表すことのできる肩書というものはありません。

「全知全能のお方、神、主。」これこそ端的に主を言い表す相応しい呼び名です。けれども、さらに、神様がなして下さることに目を向けてください。神様の御力、そして、いかにすべてを統べ治めておられるかに目を留めてください。神様は日の昇るところから沈むところまで地上のすべての者に語りかけ諭しておられます。神様は最も輝かしい光をもって先を照らし、最も暗い闇でさえ輝かせてくださいます。

また神様は、私たちを教え諭してくださいます。応えなければならぬ事が多くあるとき、最も大切なのは、呼びかけられたとき、全能なるお方、神、主に応答することです。私たちの行くべきところは他にあるのでしょうか。

讃美歌 14

祈り 親愛なる主よ。あなた様がすべてを治められていること、そしてあなた様の驚くばかりの御力を認め、自らの罪を告白します。あなた様こそ唯一の私たちの神です。私たちをあなた様の御手のうちにおらせてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

マイケル・ディットモア

カリフォルニア州 ニューバリーパーク

7月3日(金)

罪びとの叫び

聖書朗読 詩篇 51:1~17

まことに、私は自分のそむきの罪を知っています。私の罪は、いつも私の目の前にあります。 詩篇 51:3

詩篇51篇を読むと、私は気まずい気持ちになります。というのは、ダビデが自分の犯した罪に対する苦悶を言い表している箇所を読むと、ダビデと神様の個人的な真剣な対話を立ち聞きしているように思えてくるからです。ダビデの罪については、1サムエル11章、12章に詳しく記されているとおりであり、ここで、ダビデが神様の御前で犯した罪について改めて推察する必要もないと思います。

この詩篇の箇所は、このような理由以外にも私の心を落ち着かなくさせる理由があります。それは、私の罪はダビデと全く同じではありませんが、私にもダビデの罪に対する恥がよく分かり、そのことばを読むと、私自身の深い罪について否応なく面と向かわされるからということです。ダビデのことばによって、私の罪が単なる「欠点」や「弱さ」ではなく、神の目には「悪」なのだということを思い知らされるのです。

神様は確かに、イエス様を通して私たちの罪を赦すと約束してくださいました。けれども、私は神様が「雪よりも白く」(詩篇51:7)して下さるという点にばかり目を向け、自分の罪を直視することを避け見過ごそうとします。詩篇51篇は、そのような心地良さの中にいる私を引き上げ、罪のもたらす絶望を思い出させ、その罪の重さを実感させるものです。私はただ心から、神様が決して「蔑まれることのない」(17節)「砕かれた、悔いた心」を捧げようと思います。

讃美歌 508

祈り 親愛なる神様。私たちに自分の罪を認めさせ、あなた様の目にはその罪がいかに深いものであるかをはっきりと悟らせてください。あなた様が私たちを清める道をお与えくださり、そして、あなた様の御心を挫くことがあっても、見放さずにいて下さることを感謝します。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

タミー・ディットモア

カリフォルニア州 ニューバリーパーク

7月4日(土)

主にある喜び

聖書朗読 詩篇 53

ヤコブは樂しめ。イスラエルは喜べ。

詩篇 53:6

私の友人で、荒れた半生を送ってきた人がいます。彼は、飲酒を自制できない為に、4度の結婚と3つの事業に失敗し、2つの有望な職を失いました。ある晩、クリスチャンの友人が彼を訪ねて来たのですが、その晩は、彼がこれまでの生き方と決別するかどうかの人生の分かれ目となりました。夜明け前になり、彼はバプテスマによってイエス様に自分の人生を明け渡すことを決め、これまで彼の魂を脅かしていた絶望感は、救いの喜びに変えられ、心満たされることとなりました。

彼は、私が出会った当時、私の知る誰よりも常に幸福を覚えた歩みをしている友人の1人でした。彼の生き生きとした精神は、パウロが「あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れた」(Iテサロニケ1:6~7)と記している、テサロニケの人々が変わられた様子を彷彿とさせてくれます。彼も同じように新たな人生を喜んで受け入れたのです。アルコール依存者たちを援助する団体AA (Alcoholics Anonymous) のサポートを受けながら、彼は過去の破滅的な生き方に勝利したことを喜んでいました。そして、日々、お酒の奴隷から解放されたことを主に感謝しています。かつてはイエス様を抜きにした人生を歩もうとしていましたが、今は主の恵みの内に生き、「主なるイエス・キリストを通して私たちに勝利を与えて下さったことを神様に感謝します。」と言う私たちとともに、喜びをもって生きています。

讚美歌 246

祈り 主よ、あなた様の御子の血によって私たちの罪を清め、日々課題に直面する私たちに、強さと、あなた様の御霊による喜びをお与えくださり感謝します。

十字架を覚えてイエス様のお名前により祈ります。アーメン。

ジーン・シェルブルン
テキサス州 アマリヨ

7月5日(日)

招きと忠告

聖書朗読 詩篇 95:1~11

「今日」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされてかたくなにならないようにしなさい。
へブル 3:13

礼拝への招きと厳しい忠告。これは互いに矛盾しているように思えます。私たちは元気に、明るい気持ちで、何もネガティブな思いを抱かずに礼拝に臨みたいと思うものです。神様の怒りについて触れたいとは思いません。神様は私たちに腹を立てられることなどないと思いませんか。私たちは礼拝への招きには応じますが、厳しい忠告は疎かにしてしまいがちです。主が、「それゆえ、わたしは怒って誓った。『確かに彼らは、わたしの安息に、入れない。』」として、民を奮起させられたとき、御霊の語られたことは何だったのでしょうか。

御霊によって求められたのは、従順さをもって礼拝することです。私たちは礼拝への招きには耳を傾けますが、忠告については耳を傾けない、あるいは、聞き流してしまいがちです。けれども、神様を礼拝することへの呼びかけに対する応答は、その声に聞き従うことによるのみなされるものです。そして、真の礼拝は、「すべての神々にまさって大なる王」なるお方への忠誠によるのみなされるものです。

私たちは、罪の狡猾な性質によって、そのような姿勢で神様に臨むことから遠ざけられます。そのため、「心を頑なに」してはならないというみことばは、先代の神の民、そして現代の神の民、そして、詩篇やへブル人への手紙として知られる戒めを聞くすべての者に向けられたものなのです。

讚美歌 5

祈り 天のお父様、あなた様の御名をこの地上のすべてのものに称えさせてください。天にあるごとく、この地上でもあなた様のみこころが成りますように。すべて良きもののうちに、あなた様のご栄光が現れますように。
イエス様のお名前によって。アーメン。

クリス・フリッツェル
テキサス州 グランバリー